

仕事場



探訪

随時掲載

No.3

タカハシ弓具店



竹に羽根をつけるはぎ専門職人の大山さん。15歳から始め、この道50年になる

180年前の技法そのままに

▲漆は1日に1度しか塗れない上、何日も塗り重ねるため完成に40日から50日かかるという



▲同市大江4丁目のタカハシ弓具店。1829（文政12）年の創業



五代目の高橋良明社長



▲漆を重ね塗りし本金（ほんきん）を挟み込み、研ぎ出すことで模様が浮き出てくる

熊本に、昔ながらの技法を使って竹矢を作る弓具店があるのをご存知だろうか。

熊本市大江4丁目の(有)タカハシ弓具店は肥後細川藩のお抱え矢師として創業し、180年の歴史を持つ。矢羽根を固定する部分に漆を塗るといふ昔ながらの技法を受け継いでおり、同社の高橋良明社長によると、この技法を用いているのは全国で同社のみ。

また、伝統は残しつつ、高橋社長の父である四代目の民人氏が弓道人口を普及させるため、昭和30年代に日本で初めて取り組んだというアルミ製の矢の製造も行っている。その後も安くて品質の良い、グラスファイバーやカーボンを使用した弓を開発した。

「新しいものを取り入れながら、大事なものは残していく努力を続けなければなりません」。五代目の高橋社長はそう説明しながら「時は変われどものつくりにこだわりたい」と、創業以来の精神を今も受け継いでいる。

（編集部・森永由香）